令和3年度 島根県立出雲商業高等学校　学校評価報告書

評価方法　A:十分達成できている　B:おおむね達成できている　C:達成が不十分である

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標（数値化）	資料	担当分掌	内部評価		学校関係者評価			改善策
							達成状況	評価	考察	評価		
学習指導	学力向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業を充実させる	学習状況・学力の分析に基づく授業力向上を図る	公開授業の100%実施（1人1回） 公開授業延べ参観者数140人以上	教務部記録	教務	●全教員を3クールに分けて実施する計画を立てたが、実施状況は目標に達していない。周知方法を工夫し、100%実施となるようなやり方を考えたい。	C	●実施できなかった理由として、感染症も関係していたのか？それとも実施の必要性が伝わっていないからなのか？	C	C	●感染症対策をしながら現状でも実施可能な方法を検討したい。授業のテーマを示したり、班編成を4，5人とし、班内のメンバーには確実に実施を周知するなどして、100%実施を達成したい。
			ICT機器やオンライン学習システムを活用した授業を展開する	ICT機器を利活用した授業80%以上	利用状況アンケート	教務	●かなりの割合でiPadや実物投影機を活用した授業が展開され、学習内容への興味・関心付けがなされてている。出前講座等を通して、さらなる効果的な機器活用方法を探究していきたい。	B	●実物投影機等を活用した授業は、わかりやすく生徒の学習への意欲が感じられた。	B		●ICT機器を使うことが目標ではなく、校内研修などを通して有効的な活用法を研究し、生徒の理解度向上につなげていきたい。
			学ぶ力、学んだ力を高められる授業の推進	生徒による授業評価の「授業に関する項目」の平均が1点台	授業評価アンケート	教務	●授業への満足度は高いように感じる。自ら学ぶ姿勢を引き出すような仕掛け・取り組みが必要である。	B	●生徒へのアンケートの内容について聞き方を変えてはどうか？例えば、「学習内容に興味関心を持つように工夫した指導が行われている」ではなく、「授業で学習したことに興味を持って、自分でも調べて研究してみようと思った」など、生徒目線で聞くと回答が変わるのでは？	B		●自ら学ぼうとする意欲や探究心をくすぐるような取り組みを考え、授業への興味・関心を高めていきたい。
			家庭学習の充実とそのための授業や教材の改善 ⇒Gsuiteの活用	平時の平均家庭学習時間が2時間以上	学習時間調査	教務	●平時で50～90分、テスト期間で120～160分で目標値の半分程度であった。学年進行で減少しており、より高度な知識・資格を身につけるためにも学習習慣が定着するような指導を考えていきたい。	B	●目標値の半分程度の達成というのは、生徒の意欲の問題か、それとも時間的制約の問題等の別も原因があるのか考えることも必要である。	B		●学んだ知識や技術が世の中でどのように生かされているのか、資格取得の意義などを明確にし、家庭学習の定着を図っていきたい。
			検定合格率を向上させる	全商検定80%以上の合格率を目指す	検定結果	商業	●授業の一環で受験する検定試験で80%を達成しているものは、珠算・電卓実務のみである。ビジネス文書検定（速度部門）では合格率が低く、タッチメソッドの習得や文章の読解力に課題があると考えられる。年度毎に数値の変動はあるが、様々な生徒の実態に応じた指導を今後も工夫していきたい。また、合格率は一律80%以上が理想であるが、各種目の難易度や課題に応じて細やかな目標設定が必要であり、来年度に向けた目標の再考が必要である。（別資料より）	C	●資格の取得は重要なので、より一層の受験、資格取得向上に努力して欲しい。	C		●資格取得スケジュールの配布など検定試験に自発的に取り組める支援を行っていく。また，前年度不合格となった試験に再チャレンジする生徒への科目単位での呼びかけ（珠算・電卓検定，簿記検定）や演習や教員に質問できる場所や時間の設定を計画する。また，全商検定について授業単位で受験している検定については，指導スケジュールの見直しや合格目標値を再検討していく。
			一つ上を目指す資格取得に挑戦させる	日商簿記検定合格率20%以上 ITパスポート　25%以上	検定結果	商業	●意識が高くチャレンジする生徒はほぼ合格をしているが、一方でチャレンジする生徒数を増やすためにも、商業部や学年部、進路指導部などと連携し資格の有効性を伝えるとともに、学習支援の体制を充実させたい。CBT化によって受験機会の増加と分散化が図られており、年間を通じた学習指導をより進めていきたい。	C	●検定合格率向上も、一つ上の資格取得への挑戦も、それが自分の人生にどう影響してくるのか、何のための資格取得かが分からないと進んでいかないと感じます。キャリアビジョン（キャリア教育）との連携が必要である。	C		●教科間，分掌，学年部等との連携を継続させるとともに，演習できる環境をつくるなど支援体制も検討していく。また，外部検定であるため，試験のしくみなどの受験案内など必要に応じて説明の機会も設ける。
	商業教育	学科の特性に基づいて、生徒の個性を伸ばし、専門教育を深化させる	グランドデザインに基づいた特色ある教育課程を構築する	高校魅力化コンソーシアムと連携したカリキュラムの構築	教科主任会	教務	●来年度入学生から新しい教育課程となる。本校の魅力が引き出せるよう研鑽していきたい。	B		B	B	●育てたい生徒像を実現できるよう教育課程の見直しを含め今後とも検討していきたい。
			ビジネスマナー教育を充実させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：1．5P以内、保護者：1．5P以内、教職員1．5P以内	学校評価アンケート	商業	●コロナ禍ではあったが、昨年度よりもビジネスマナーの機会を設けることができたことや、デパートの開催でビジネスマナーを身近に感じた生徒も多かった。一昨年度までの数値までは伸びないが、昨年よりも意識づけができたと感じる。	B	●コロナ禍のデパートの開催は大変だったと思うが、出商の魅力であり強みなのでぜひ今後も続けていただきたい。 ●デパートの開催でビジネスマナーを身近に感じた生徒が多かったとのことで、やはり実践を通しての学びは身につきやすいと考える。コロナかではあったが、実施方法を工夫しながら今後も継続して取り組むことを望む。	B		●身だしなみや挨拶など生徒指導部との連携や全教職員でビジネスマナーについて共通理解を図る。
			商業科目の内容を充実させ，専門性の深化を図る	課題研究発表会　生徒評価　1．5ポイント以内 授業評価　1．5ポイント以内	課題研究発表会生徒評価 授業評価アンケート	商業	●課題研究などの商業科目やデパート活動などを通じて、地域企業と連携しながら、実体験を通じてビジネスの見方や考え方を養えた生徒も増えている。（デパート・マーケティング講演会のアンケート） ●情報処理科では、国際Rubyプログラミングコンテストで表彰されるなど日頃の学習を評価される機会もあり、学習意欲向上に繋がった。	B		B		●課題研究では探求のプロセスを意識した活動にシフトしていくためにも，講座（研究グループ）設定を検討する。また、魅力化推進部企画の特別授業を課題研究につなげるためにも全教職員で連携を図る。

特色ある学校	外部連携		生徒・保護者・地域・中学校等へのタイムリーな情報発信（HP等）を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 中学生：95%以上、保護者：40%以上、教職員：85%以上	学校評価アンケート	総務	●オープンスクール（中学生）では、100%と肯定的な結果であった。また、今年度は2回目を10月初旬に開催し情報提供をできる機会を増やした。10月から新ホームページによる情報発信を行い、肯定的な回答は、保護者が59%、教職員は78%と目標設定を一部達成できていない結果となった。スムーズな情報発信の掲載方法（各担当からの発信）の見直しを考えている。	B	●親が子供に興味がないわけではないと思うが、多忙な中で情報をわざわざ取りにいく（HPを見に来る）状況でもないのだと思う。SNS（LINEなど）を活用したプッシュ通知でHPを閲覧する親が増えると、開かれた学校になると思う。 ●地元大津地区への情発信により生徒の活動や学校の取り組みの理解ができつつあり、子どもたちを応援する声も届いており効果があった。継続とさらなる充実を望む。 ●ホームページも見やすい。	B	B	●スムーズな情報発信の掲載方法（各分掌との連携）の見直しと、緊急メールの登録を全校生徒の保護者に登録してもらうように推し進めてることで情報が家庭に届くように工夫を図る。
			地域の各種団体と連携した学習指導を行う	外部団体と連携した授業を実施した講座数が18講座以上	各教科資料	教務 商業	●IT人材育成事業，マーケティング講演会，課題研究各講座，地域活性化講座（ビジネス実務），特別授業（3月予定）	B		B		●今後も必要に応じて外部との連携を行い，ビジネス教育の一助とする。
	生徒指導・保健相談	望ましい生活習慣を確立させ、主体的で明るく、規律正しい生活態度を育成する	社会人として通用する挨拶・マナー・身だしなみ・ふるまいの指導を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：80%以上、保護者：60%以上、教職員80%以上	学校評価アンケート	生徒指導	●アンケート結果を見ると、肯定的回答は生徒100%、保護者96%、であるのに対し教員評価は78%であった。生徒、保護者と教員の感覚は随分かけ離れている。数年前と比較すると、身だしなみや挨拶は確実に徹底できていない。生活安全委員と今後も呼びかけを行い、先生方にも積極的に指導をしていただきたい。	B	●過去の生徒との相対評価ではなく、絶対評価が必要である。どこまでやれば評価されるのかが明確でないと、目標達成のイメージができない。生徒は現時点で満点だと思っているので、教員との感じ方のずれが何なのかを具体的に可視化する必要があると思う。 ●学校だけでなく地域住民との関わりの中で、直接、または自然に身についけていくことも大いにある。現在各種ボランティア活動で地域に貢献してもらっているが、それらをもっともっと活発にすることで地域を利用してほしい。学校のみが「指導」として抱え込むことはなく、人生の先輩として周りの大人にも責任がある。協力できることがあればどんどんまわりを利用すべきである。	B		●交通安全教室、情報モラル講話などを行いい生徒への注意喚起を行いたい。また、身だしなみ、ふるまいの指導については、月曜日朝のビジネスマナーの中で指導したい。また、全教員で指導を行うようにお願いしたい。
			教育相談を充実させ、問題を抱える生徒の早期発見と適切な対応を行う	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：80%以上、保護者：70%以上、教職員85%以上	学校評価アンケート	保健相談	●アンケート結果より、肯定的評価　生徒86%、保護者86%、教員95%とあるので、概ね目標を達成していると言えるものの、生徒の15%は悩みごとを抱えたままで対応していないので、まずは全員が声がけを機会を捉えて行い、HRでの面談や、保健室来室時の面談、部活動での面談等を行っていく必要がある。また、特別な支援の必要な生徒には、引き続き全員で適切な支援を行っていきたい。	A	●個別の面談は大変かと思うが、一人一人と向き合うことが大切だと思うので、頑張っていただきたい。 ●生徒が学校の教育相談体制をどう感じているかアンケートの問方ではよくわからない。多忙な現場でなかなか時間を捻出することは難しいとは思うが、できるだけ一人一人の生徒と関わる時間を大切にしてほしい。また、担任(担当)が一人で抱え込まないようにしてほしい。	A		●生徒アンケートの問い方は、次年度に向けて、より実態がつかめるように見直しをする。 ●入学時に相談したいことがあった生徒や、休みがちな生徒に対して、継続的に面談を計画する。 ●特別な支援の必要な生徒には、研修会を持ち、学年会と連携して情報共有して必要な支援する。
			安全・安心な学校を目指し、教育環境の整備を行う	安全点検の実施（年2回）	学校保健委員会資料	保健相談	●安全点検により、事務部との連携して危険箇所の修繕を実施している。予算との兼ね合いがあり相談しながら、優先順位の高いところから対応している。年2回の安全点検を待たなくとも対応できる事項が点検結果として挙げられているので、常日頃から安全・安心の観点を生徒教員に周知していきたい。また、感染予防としての消毒作業が日課として100%できるように協力を呼びかける必要がある。加えて、生徒への手洗いうがいの励行、黙食の習慣化を生徒会と協力して一層徹底させる。	B		B		●年度当初から安全・安心の観点で学習環境を点検し、すぐに対応できるものについては学期末を待たずに対応するように生徒教員に呼びかける。 ●新型コロナ感染症の予防対策として、従来通りではあるものの、新年度新たに手洗い消毒やうがい・黙食、マスクの着用、教室の換気について、全教職員・生徒会と協力して徹底する。 ●発熱やだるさ等の体調不良等の体調管理に慎重に対応できるように、保健便りを通して保護者・生徒に注意を喚起する。

特色ある学校	進路指導	自己の目標に向かって意欲的に学ぶ生徒を育てると共に適切的確な進路指導を行う	生徒に明確な進路目標を決定させる	進路希望未定者の割合 1年生：20%、2年生：5%	1・2年進路マップ（10月） 学習・進路チェック	進路指導	●1年生：14%，2年生：6% おおむね達成できていたように思う。未定の者については、担任の先生を通じて、どういう点で悩んでいるかを確認しながら、進路としてできる限りのサポートをしていきたい。	B		B	B	●進路指導計画の改善 （進路をいつまでにどこまで決めるかを明確にし、全体で共有する。）
			望ましい職業観を育成し、学年段階に即したキャリア教育を計画的に行う	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：95%以上、保護者80%以上、教職員90%以上	学校評価アンケート	進路指導	●生徒：⑭98%，保護者：なし，教職員：⑲83% 生徒評価は高かったが、教職員評価は目標に届かなかった。今年度は、昨年度までの行事を年度初めに大幅に見直したため、そのことに対して十分に理解を得られなかったのではないかと考える。来年度は、3年間を見通した進路行事の配列をさらに考え、その意図が生徒・保護者・教職員に伝わるように努めたい。	B	●望ましい職業観の育成には、自分自身が地域の主体者、社会の主体者であるという認識が必要である。地域の困りごとを解決していくという視点で職業観が育まれることを望む。	B		●進路指導計画とその考え方の周知 ●生徒自身が地域社会の主体者として課題解決に取り組むための施策を、商業部や魅力化推進部と実施する。
			進路情報の提供や個別指導により、就職・進学の両面における指導を行う	進路行事を、毎月、Webページに掲載する アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：95%以上、保護者：65%以上、教職員75%以上	ホームページ履歴 学校評価アンケート	進路指導	●Web：6月1回,7月2回,11月1回 生　徒：⑮94%⑰94%⑱96% 保護者：⑧81%⑨85%，教職員：⑳75% ホームページへの掲載が目標の半分にも届かなかったので、来年度は、進路行事だけでなく、進路情報についてもホームページへの掲載を検討していきたい。また、生徒が3年間を通した進路学習がイメージできるよう、校内でも学年会と連携して、更なる情報提供・進路実現への支援ができるよう、努めたい。	B		B		●キャリア委員会の発行する「キャリア通信」のHPへの掲載 ●進路情報の学年会への積極的な提供
	部活動・生徒会活動等	望ましい人格形成を目指した特別活動への積極的な参加を促し学校を活性化させる	生徒の読書や授業での図書館利用を促進させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：70%以上、教職員80%以上	学校評価アンケート	図書 視聴覚	●アンケート評価項目で生徒の肯定的意見は4項目中3項目がおおむね90%となったが、「図書館、図書資料、新聞等の利用」については59%にとどまっている。授業での図書館利用時間が昨年度よりも減少していることが理由のひとつと考えられる。教職員の肯定的意見は100%近いので、図書館の授業時利用を一層進めるための連携を深めることが今後の課題である。	B		B	A	●生徒一人あたりの貸出冊数は2年連続で増加しているため、今後も新着本の紹介を積極的におこなうほか、より利用しやすい図書館作りに努めていきたい。授業での図書館利用時間の向上のために、来年度からの新学習指導要領実施を踏まえ、各教科へ活用の呼びかけを進め、一層の連携を図りたい。
			部活動への積極的な参加を促し活性化させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：75%以上、保護者：60%以上、教職員80%以上	学校評価アンケート	生徒指導	●生徒、保護者とも部活動については積極的な活動を実施しているとの、高評価である。各大会で好成績が残るように、生徒指導部でも検討したい。	A		A		●各部活動が部活動勧誘に力を入れていただき、活気ある学校にしていただきたい。
			生徒会活動を見直し活性化させる	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒：80%以上、教職員80%以上	学園祭アンケート 学校評価アンケート	生徒指導	●今年度も、生徒会活動については高い評価をいただいている。今年度も学園祭をはじめ、各学校行事で生徒会の生徒が活躍してくれた。来年度も主体的に活動をし、更に活気のある生徒会を目指したい。	A		A		●各委員会は、全校生徒に対して放送、集会などを利用して活動をもっとPRできれば良いのではないだろうか。
	人権・同和教育	生徒一人一人がお互いの人権を尊重し、それぞれの個性を認め合う心を育て、差別やいじめなどの人権侵害を許さない実践力を養う	人権意識を高揚させ、心身ともに健康で文化的な学校生活が送れるようにする	アンケート評価項目の肯定的意見 生徒90%以上、教職員90%以上。	学校評価アンケート	人権・同和教育	●生徒・教職員に対する学校評価アンケートにおいて、いずれも95%以上の肯定的評価を得ている。中でも、「学校生活を通して人権・同和問題に対する理解が深まった」という評価項目に対する生徒の肯定的回答の割合が昨年を上回り、ホームルーム活動において新たなプログラムを実践したことの成果が現れたと考えている。	A		A	B	●今年度は、障がい者問題をテーマとした講演会、ネットを通じたコミュニケーションのあり方を学ぶホームルーム活動を新たに行った。次年度以降は、多様化する人権課題や生徒・保護者のニーズに対応するために、性自認・性的指向などの新たなテーマを取り入れてゆく必要がある。
			保護者に対して積極的な啓発活動を行う	広報誌「人権・同和教育だより」の発行やHPでも情報提供 アンケート評価項目の肯定的意見 保護者60%以上。	広報誌の発行状況 HP活用状況 学校評価アンケート	人権・同和教育	●例年同様学期に1回の「人権教育だより」を発行して、保護者への啓発を行った。学校評価アンケートにおいては、「人権尊重の心と態度を身につけるための人権教育が行われている」という評価項目に対する肯定的回答が90%をこえ、概ね良好であった。	B		B		●保護者アンケートの集計によると、人権課題に対する取り組みが「十分に行われている」という回答が少なく、本校の活動が保護者に伝わっていない現状が把握できる。次年度以降、ホームページやICTを活用した啓発活動や情報提供について検討を進めたい。
	魅力化推進	地域資源を活用した授業の充実	地域の方や外部指導者と連携した授業展開をコーディネートする	「生徒の人や課題などにじかに触れる機会がある」 認識　70%	高校魅力化評価アンケート	魅力化推進	●コロナ禍で校外の方と連携した事業を中止したり企画できなかったりしたことから、評価値50%（調査時期6月）となった。このような中で実施した出商デパートでは、調査・分析活動を加えるなど新たな挑戦もすることができた。従来と異なる新たな分野へ視点を移して、地域連携の取り組みを広げていきたい。同時に、学校に興味を持って関わる地域の大人を広げる取り組みを考えていきたい。	C		C	C	●出商デパートを販売実習だけにとどまらず、地域課題に取り組む機会として進化させたい。校内の各分掌で行っている事業や校外で企画されている事業などを整理し、生徒や教員がやりたいことを考えやすい状況を作っていきたい。そのためにも、積極的に魅力化推進部として校外に出かけるなど情報収集にさらに励んでいきたい。
		地域資源を活用した授業の充実	身の回りの課題に気づき、課題解決しようとする生徒を育成する	「地域の課題の解決法について考える」 認識　60%	高校魅力化評価アンケート	魅力化推進	●調査時期6月の評価値35%であり、コロナ禍の影響を受けた前年からの活動が評価に表れている。今年度は、2学期以降に出商デパートや課題研究など、校外に出かけた調査活動が行えているため、次年度には高まっているものと思う。1年生の段階から商業生らしい「ビジネスの視点や解決に向けた活動」を取り入れられるよう、全体計画を進めたい。	C	●地域課題に気づく人となるには、地域の主体者であるという認識が絶対的に必要である。なんでもすぐに手に入る時代だからこそ、一人では生きていけないのだという縁起をしっかり学ぶ必要があると思う。本来なら小学生くらいでやるべきでしょうが。	C		●12月の出商デパート、3月の出商リサーチ、のように年間を通じて地域にある学びを深める機会を定期的に設けていきたい。また、各教科の授業で様々な取り組みが現在も行われているが、授業公開だけでなく成果も教員・生徒間で共有していき、学校全体で取り組んでいるという意識醸成に努めたい。

働き方改革	全ての教職員のワーク・ライフ・バランスの適正化を図り、働きやすい職場環境を確保する	月あたりの時間外労働勤務の平均時間を削減する	全教職員の月あたりの時間外勤務の平均が55時間以下	時間外勤務集計システム	教頭	●時間外勤務の平均は、約50時間であり、全体としては、達成できているが、教職員間で時間外勤務の格差がある。	A	●個人差が大きくならないよう、校務分掌の検討が必要である。	A	B	●教員間の業務量の格差が否めない。人員の配置の配慮をし、チームで仕事をする職場づくりに努めたい。
		教職員が年次有給休暇を積極的に取得する	全ての教職員が、年5日以上の年次有給休暇を取得	総務事務システム	教頭	●85%達成できたが、6名が目標の年次休暇日数を取得できなかった。	B	●6名の職員は、なぜ年休が取れなかったのか理由をはっきりさせ、解消を図る必要がある。	B		●年休有給取得をするよう、呼びかけは、続けてきたが、校務多忙等のため、取得できなかった者もいる。特にテスト期間中や長期休業中など、今後より一層、積極的に年次有給休暇を取得するよう、働きかけをする。
		仕事と仕事以外の生活のバランスを図り、相互に好影響を与えている状態にする	ワークライフバランスがとれていると感じる教職員の割合が70%以上	学校評価アンケート	教頭	●バランスが取れていると感じている教職員の割合が54%であり、仕事と生活のバランスが取れていない状況が伺える。	C	●企業も同じだが、何がなんでも教員の幸せ度を上げる！というトップの強い信念がないと出来ない。一方で、仕事にやりがいを感じている人から適正化のために仕事を取り上げるのは違うとも思う。教員一人一人が理想とする形を実現できるよう、取り組んでいただきたい。 ●個人の主観をもっての評価になり、外部の者にはなかなか評価しにくい。また、働き方改革については他の2項目も同じで個人差が大きいと感じる。	C		●仕事に対するやりがいもワークライフバランスの大きな要素と考える。職務に対する責任感を向上させ、達成感を得られる組織づくりに努める。 ●教員間の業務量の格差をなくし、チームで仕事をする組織を作り、お互いに支え、協力しあう職場にすることで、個人の負担を減らし、ワークライフバランスが取れる仕組みを作りたい。